

長野県松本蟻ヶ崎高等学校 2022 年度自己評価表

I 教育目標

教育方針	学校教育目標
1 日本国憲法と教育基本法に則り、自由・平等・博愛と自主・自立・自存の精神を涵養する。 2 より文化的で、暮らしやすい社会の形成者として、希望と未来のある世界の構築に実践的に参画することの出来る、個性豊かな人材を育成する。	1 日々の授業を重視しながら、部活動との協調的展開を志向する。 2 生徒の多様な進路希望を実現すべく、創意工夫と相互協力を旨とした教育を実践する。 3 生徒の自主活動を効果的に支援し、偏りの無い人間像の確立に努める。 4 いじめや体罰のない、生徒が安心して学校生活をおくることができる安全な学校づくりをする。
	今年度の重点目標
	1 文武両道を目標とした時間の有効活用を図る 2 多様な進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む 3 主体的な挨拶と清掃に取り組む 4 安心安全な学校を目指す

II 今年度の重点目標に対する「評価項目」

【1 文武両道を目標とした時間の有効活用を図る】

- (1)生徒が自ら具体的な学習目標を持つことができるよう、教科指導と進路指導を行う。
- (2)部活動や生徒会活動に積極的に参加しながらも、家庭学習の時間を確保できるよう環境づくりを進める。

【2 多様な進路実現に向けたカリキュラムの改善に取り組む】

- (1)キャリア教育の観点から、生徒の主体性を喚起し、協調的・発展的助言をする。
- (2)進路実現にかかわる有効な情報・資料等を的確に提供する。
- (3)外部の講師による講演会等を実施し、生徒の進路意欲を喚起する。

【3 主体的な挨拶と清掃に取り組む】

- (1)自然な挨拶が出来る校風をめざし、良好な人間関係を構築する。
- (2)SDG s に対する意識を喚起し、無駄の削減や、ゴミの処理量を減少させる。
- (3)全員が主体的に清掃を行えるよう徹底する。

【4 安心安全な学校を目指す】

- (1)安心、安全の学校づくりをするため、懇談会等を利用して状況把握をする。
- (2)いじめ・体罰の未然防止のため、常に生徒・職員の意識の啓発に努める。

【係】

		評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)
教務	教務	1)生徒が主体となって取り組める学校生活を実現するために、授業や指導の改善をすすめ、行事の内容や実施時期を再考する。また、会議を減らし生徒の指導のための時間を確保しつつ、教員の働き方の見直しをする。 2)緊急事態に対する適切な対応をする。災害防止対策を万全に行う。 3)Google や C4th を利用して会議を円滑かつ効率的に行う。また、連絡が各職員にスムーズに伝わるようにする。	1)授業時間の確保と、行事内容の再考を進めつつ、新学習指導要領に合わせた体制作りができたか。また、平日の放課後の時間を生徒や授業のために有効利用し、教員も超過勤務の是正が図れたか。 2)緊急事態に適切に対応できたか。防災対策は徹底されたか。 3)パソコンやタブレットを用いペーパーレス化が図れたか。また、必要に応じてオンラインを利用し、会議の開催や連絡ができたか。
	情報	1)成績処理や生徒情報の取り扱いを円滑に行う。 2)情報通信技術（ICT）環境の整備	1)データの流失や紛失、出入力の誤りなどを防ぎながら、校務支援システム等を用いて円滑な運用ができたか。 2)必要とされる ICT 環境が整備できたか。
	時間割	1)適正な選択科目および講座配置の工夫 2)バランスのとれた考査時間割の作成 3)3 年前期特別編成授業の作成	1)本校教育課程、入試科目、生徒の選択科目希望、教員定数などの総合的観点から、開講講座、時間割が適正であったか。 (教育課程移行期の工夫と教室配置の工夫) 2)年間考査時間割計画を作成し、バランスのとれた科目配置、監督配置ができたか。 3)学習係との連携で、効果的かつ生徒にとって有効な特編授業が編成できたか。
	渉外	1)PTA の立場からも「開かれた学校づくり」をすすめ、日常の活動の活性化を図る。 2)同窓会と学校が連携し活動をおこなう。	1)①会報発行など全会員に PTA の情報発信ができたか。 ②コロナ禍における PTA のあり方を話し合いながら、地区 PTA に変わる学年 PTA の充実ができたか。 2)①諸活動の中で同窓会と学校の連携は進んだか。 ②生徒会、PTA、学校、同窓会でおこなう四者協議会での連携が進んだか。
	保健安全	保健 1)心身の健康管理を適切に行う。 2)健康教育の充実 3)環境衛生活動の充実	1)生徒健康状況や治療状況を把握し治療勧奨や適切な健康管理・健康相談ができたか。 「心の健康問題」においては担任、生活指導、支援委員会等との連携が適切にとれたか。 2)保健だよりや保健委員会活動等などを通じて、充実した健康教育を行う事ができたか。 3)環境衛生の定期日常点検が適切に行われたか。 検査、点検の結果、改善されたか。

		清美 1)校内外の清掃を徹底することで、コロナ対策も含め、学びやすい環境を整え、生徒の自主的な清掃活動を育成する。 2)環境や資源に対する意識を向上させるとともに清掃を通じて感染時の対応を学ぶ機会とする。ゴミの減量・分別の習慣を生徒につけさせ、ストックヤードなどの管理を通じて、生徒の自主性を育てる。	1)清美委員会の自主的活動を活性化させるとともに、全校生徒による校舎内外の美化と学習環境の整備につとめることができたか。コロナ対策を含めた生徒の自主的な清掃活動がきちんと実施できたか。 2)日常の清掃活動、ゴミの分別・減量、ストックヤードの管理など、生徒主体の活動として委員会を中心に行うことができたか。
		園芸 1)中庭花壇の管理 2)式典用の鉢花管理・装飾 3)中庭花壇の除草	1)園芸委員会の年間活動が計画的で充実した内容になるように行うことができたか。 2)卒業式・入学式における式典用鉢花の管理、式場の装飾を行うことができたか。 3)園芸委員会が協力して除草作業を計画的に行うことができたか。
生徒指導	生徒支援	生徒が日々安心して安全に、いじめなどのない学校生活を送れるようにするために、啓蒙・啓発を行う。	1)挨拶の励行ができたか。 2)校内の見回りとマナー（交通安全、スマートフォン、貴重品管理）に関して、注意喚起と講話等の実施ができたか。
	教育相談	学校生活において支援を必要とする生徒への適切な対応	1)支援委員会と連携し、全教職員と情報共有を図り、生徒支援を共通の課題として取り組むことができたか。 2)生徒相談室の運用が円滑に図られ、カウンセリングなど相談態勢をとることができたか。
	生徒会	1) 学校行事を通じて人間力を高め、人との絆や信頼を形成し、生きる力や自己肯定感を育てる。 2)自治活動・自主活動の機会を保障する中で、地域社会や環境活動への広がりを持った取り組みを行う。	1)各行事で自分の役割を認識し、生徒会やホームルーム活動に貢献できたと感じる事が出来たか。文化祭生徒アンケートで A 評価をつける生徒が7割を超える。 2)自分たちに出来る、ボランティア活動・地域活動・環境問題への取り組みができたか。
進路指導	進路指導	1)キャリア教育の観点から、3年間を見通した体系的かつ効果的な進路指導を行う。 2)必要な時期に、必要な情報・資料を、効果的に提供する。	1) ①時機に応じた効果的な講演会・学年集会を計画し、実施できたか。 ②全国的な進路傾向、大学入試システムの変更に対応した進路指導方法を研究・実践できたか。 ③各学年で複数回の進路検討会をもち、生徒個々に寄り添った指導ができたか。 2) ①学年毎に進路・学年通信を発行し、的確な情報提供ができたか。 ②生徒の進路意識を喚起し、学校全体が学習に向かう雰囲気作りに努めることができたか。 ③生徒・保護者が利用しやすいよう、情報や資料を提供することができたか。
	学習	1)生徒の学習への意識を高め、基礎学力の定着と知的好奇心を涵養する。 2)学力向上や進路実現のため、補習授業および特別編成授業などの企画運営をおこなう。	1)生徒自身が主体的に学習へ向かう姿勢が身についたか。 2)授業や模試の復習など生徒の実態に合わせた補習授業および特別編成授業など適切な企画運営ができたか。

	探究推進	生徒自ら問いをたて、ＩＣＴ機器を活用しながら情報を収集し、フィールドワークなどにより自らの力で課題解決していく力を養うための活動を提案していく。	自らの課題に応じて主体的にＩＣＴ機器の活用し、実践的なフィールドワークが行えたか。 生徒自身が課題を見つけ解決していく能力が身についたか。 自らの学びや考えを、他者に対して伝える力がついたか。
	図書	1)質の高い読書力を育てる。 2)授業との連携をはかる。 3)図書委員会活動の活性化を進める。	1)読書環境の整備ができたか。 ①適切な情報発信・資料更新ができたか。 ②生徒・教職員の読書環境を整え、向上させることができたか。 2)各学年・教科・係等と連携を図りながら、授業や特別活動や進路指導に役立つ資料提供ができたか。 3)生徒の自主性を尊重しつつ、図書委員会活動を支援できたか。
	視聴覚	1)芸術鑑賞の円滑な運営を図る。 2)合唱コンクールの円滑な運営と内容の充実を図る。 3)視聴覚教室の整備と有効活用を図る。	1)芸術鑑賞が学校開催において円滑に運営できたか。 また、生徒の心に残る鑑賞会となったか。 2)生徒会鑑賞委員会の活動を支援し、生徒が主体的に合唱コンクールの内容の向上に務めることができたか。会場への移動に配慮し、運営が円滑に行われたか。 3)授業や生徒会、クラブ活動等において視聴覚教室が有効に活用されたか。また、自習室としての管理が十分に行えたか。

【委員会】

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)
教育課程	本校の３つの方針、グランドデザインを踏まえ、教育課程の精査、編成に努める。 特に、新課程における教科「情報」の教育課程上の配置の課題と、科目「芸術総合」について、職員間で共通認識をもち、議論を進める。	教育課題および教育課程について十分に議論を行うことができたか。特に、Ｒ４年度入学生の３年次の情報科目の設定について議論を行い、現時点での結論をみいだすことができたか。
予算施設	1)2022 年度備品費・遠征費・修繕箇所等々の希望調査を行い、適切に調整し対処する。 2)施設面の運用について問題となっている事項を検討し、具体的な解決をはかる。	1)各教科、分掌等の意見を取り入れながら適切に対応できたか。 2)施設の有効運用、配置を提案し、具体的に解決を図る。
学校衛生	働きやすい安全な職場環境や健康の保持増進を図る。	1)委員会を定期的に開催し問題点を共有できたか。 2)職員健康診断（人間ドック）の全員実施ができたか。 3)校内の危険個所の点検及び改善ができたか。
支援	1)教育相談係、生徒支援係と連携し生徒相談室の運用を行う。支援が必要な生徒に対して指導方針を探り対応していく。 2)カウンセラーや医療機関と連携を図り、生徒・家庭・担任・教科担当等との連絡・協議を密にし、情報の共有を図る。 3)担当者会議・職員研修等により生徒支援に関する意識を高めていく。	1)生徒相談室の運用が円滑に図られ、当該生徒の指導方針を探り対応できたか。 2)他機関との連携を図り、校内で相互の情報共有が図られたか。 3)生徒の状況を把握した上で情報を交換し適切な対処ができるよう、職員の意識を高めることができたか。

銀河セミナー推進	計画する講座に生徒が意欲的に参加し、学力向上・学習成果が実感できるような工夫に努める。	生徒の自己啓発を引き出し、計画的な参加による学力の向上に繋げることができたか。また、3年生においては、夏季補習及び朝・放課後補習等と関連づけ、受験や進路先での学力をつける一助になったか。
コンプライアンス	学校内、職場内の非違行為およびさまざまなハラスメントを防止する。	非違行為やセクハラ・パワハラ等のない、毎日気持ちよく生活できる学校・職場であったか。
危機管理対応	生徒が安心して学び、教職員が安心して教育活動ができるよう、適切かつ確実な危機管理体制を確立する。	1)生徒や教職員が安心安全に生活を送ることができたか。 2)危険の予防、迅速な対応、再発の防止に取り組めたか。
学校保健	生徒が自ら健康を守るための行動選択をする。	1)健康診断で健康状況を把握できたか。 2)保健委員会では三役を中心に行事等における緊急時の対応ができたか。
学校企画	高大接続改革を見据えた年間行事計画を、各係と連携しながら作成し提言する。	学力の3要素をバランスよく育成・評価するために、授業時間数の確保をしつつ、授業・行事ともに生徒が主体的に取り組めるような、魅力ある年間行事計画の提言ができたか。

【学年】

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)
1 学 年	1) 基本的生活習慣を確立し、充実した学校生活を主体的に送ることができるよう指導する。 2) 生徒の進路保障のために、基礎学力をつけていくための支援を行う。 3) 学校行事・生徒会行事や人権教育を通して、「自分および他者を大切にする」気持ちを育てる。 4) 自ら考え、自ら行動する(自主自立の)力を育成する。 5) タブレットの活用を積極的に導入する新たな教育活動に取り組む(を研究する)。	1) 心身の健康に留意しながら、遅刻や欠席をせず、授業はもちろんのこと、清掃や挨拶などの日々の活動に気持ちよく取り組むための支援ができたか。 2) 通常の授業を大切にするとともに課題や各種補習を通して、生徒個々に学習の支援をすることができたか。また、課題の内容や量を教科間で連携をとって精査し、生徒が主体的に学習に取り組める体制を構築することができたか。学習時間調査により、生徒の家庭学習の定着を図ることができたか。 3) 生徒会行事やクラブ活動を通して、思考力・リーダーシップ・協調性・行動力などを育てるとともに、多様性を認めあう人権感覚を高める指導ができたか。 4) 諸活動を通して、他者と協働しながら自ら課題を見つけ、それを解決していくための指導、支援ができたか。 5) 生徒(教師)一人一人がタブレットを使いこなせる力を身につけることができたか。またデジタルとアナログの双方のよさをバランスよく教育活動に取り込むことができたか。
2 学 年	1) 当たり前のことを当たり前になす、日々の基本的生活習慣の維持・継続ができるようにする。(凡事徹底) 2) 生徒の進路保障のために、基礎学力をつけていくための支援を行う。 3) 学校行事・生徒会行事や研修旅行を通して、自ら考え、自ら行動する(自主自立の)力、他者と協同することで一つの物事をつくりあげる力を育成する 4) タブレットの活用を積極的に導入する新たな教育活動に取り組む。(昨年度からの継続)	1) 昨年度、ほぼ確立できた基本的生活習慣を、中だるみをせずに継続させる指導ができたか。また、少なくとも1～2時間以上の毎日の家庭学習の習慣を身につけさせることができたか。 2) 学力が振るわない生徒を中心に基礎学力の底上げをすることができたか。また、タブレットなどを活用し、生徒が主体的に学習に取り組める体制を構築することができたか。 3) 生徒会行事や研修旅行に前向きに参加し、自ら課題を見つけ、それを解決していくための指導、支援ができたか。また、後期では生徒会活動でリーダーシップを発揮して各行事を企画・運営し、成功させることができたか。 4) 生徒(教師)一人一人が、タブレット活用のスキルアップを図るだけでなく、その活用を通じて教育活動の内容をさらに充実させることができたか。

3 年	1)生徒の進路実現のために、学びやすい環境を整え、基礎及び発展的学力の向上を図る。 2)基本的生活習慣の定着をさらに進めるとともに、様々な面で支援を必要とする生徒に個別に対応する。 3)学習・課外活動両面で自主性・主体性の確立をめざし、学習と特別活動がバランスよく両立できるようにアドバイスをを行う。	1)学年職員の中で有機的な連携を保ちつつ、生徒の進路実現に向けた学習や進路の指導ができたか。 2)生徒が抱えている課題に対して、柔軟に対応し、個別指導を含む効果的な指導・支援ができたか。 3)生徒の自主性・主体性の確立を重視しつつ、学習と特別活動の両立に留意した支援ができたか。
----------------	---	--

【教科】

	評価項目(重点活動)	評価の観点(到達目標)
国語	1)主体的な学習態度の育成。 2)的確な学力診断に基づいた国語指導スキルの向上。	1)生徒による家庭学習(特に授業の予習と復習)は、質量両面で改善できたか。 2)①シラバスの内容を検討し、適切化をはかり、効果的に運用できたか。 ②定期考査及び模擬試験の結果を分析し授業の改善につなげることができたか。 ③新学習指導要領に基づく新科目の評価等を的確に行えたか。
地歴・公民	1)授業、補習、特編を充実させるとともに、相互の関連にも留意して学力の向上を目指す。 2)個人研修の充実と、教員相互の研鑽を図り、教科指導の更なる充実を目指す。	1)学力向上に資する連関ができていたか。 2)教科内で有効な研修が実施できたか。
数学	1)基礎力・家庭学習の確立 2)応用力の養成 3)知的好奇心や思考力の養成	1)小テストを活用し基礎力の定着を図り、家庭学習で自ら計画的に取り組む姿勢を育てることができたか。 2)問題集・参考書等の発展的問題に積極的に取り組む姿勢を育て、さらに解く力をつけさせることができたか。問題集や課題への取り組みを指導することができたか。 3)問題の解決に向けて数学的な見方を養い、意欲的に取り組む姿勢を伸長させることができたか。
理科	1)授業内容および評価の検討・研究 2)基礎学力の定着	1)新教育課程および観点別評価の実施にあたり、それにきちんと対応できる授業が展開でき、かつ適切な評価をすることができたか。また、いろいろな角度から授業の実施方法や教材などを研究することができたか。 2)授業プリントやタブレット教材などの作成、小テストや演習・実験等を実施することにより、基礎学力を向上させ、かつ大学受験にも対応できる授業が展開できたか。
保健体育	1)自分の体力を客観的に捉え、補うべき体力を知ると共に、将来にわたって健康を保持増進できる知識と体力を養う。 2)心身の健康や安全管理に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような態度の育成	1)①スポーツテストや日々の授業の中で自分の体力の要素を理解し、運動の楽しさを味わい、スポーツを身近に感じることをできたか。 ②互いに協力してスポーツを実践していく中で、集団における自らの役割を自覚できたか。 2)保健を学習する事により、現代社会における健康の問題点を知り、それを解決する方法を学習し、実践する態度を育てることができたか。

芸術	1)生徒が意欲的に取り組む授業の実践 2)芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度の育成 3)生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	1)生徒が、意欲的に取り組める題材設定、授業形態の工夫を行うことができたか。 2)諸外国の芸術文化に加え、特に日本の芸術文化に対して理解を深める鑑賞活動を取り入れることができたか。 3)表現・鑑賞にかかわる幅広い活動を通して、基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うことができたか。
外国語	1)生徒が自ら具体的な学習目標を持ち自主的に英語学習に取り組む姿勢を育成する。 2)希望進路実現のために必要となる生徒の英語力を伸ばす。	1)基礎的な事項の定着と言語活動のバックアップをする中で、生徒一人一人に英語学習に対する目標を意識させ、その達成に努力するように指導・助言を行うことができたか。 2)共通テストの内容や問題傾向を研究するとともに、他の入試問題の研究、模擬試験等の結果の分析も行い、それぞれに適切な指導・助言を行うことができたか。また、英語検定の受験促進とその受験生に対するバックアップがしっかりできたか。
家庭	1)成人年齢が 18 歳に引き下げられたことに対応した消費者教育の充実。 2)今年度より実施の新指導要領に基づいた金融教育の導入と授業研究。	1)様々な契約における責任を理解し、消費者としての自立に向けて必要な知識を習得し、主体的に考え判断する力をつけることができたか。 2)基本的な金融商品の特徴（メリット・デメリット）や資産形成の視点に触れ、生涯を見通した生活における家計の管理や計画の重要性について、関心を持たせることができたか。
情報	1)新教育課程の新科目「情報Ⅰ」の計画的な授業展開。 2)情報に関する科学的な見方・考え方の育成。	1)2025 年度入学共通テストに、新科目「情報」が導入されることをふまえながら、従来の学習内容にプログラミングなど新分野の学習を加え、計画的に授業を展開できたか。 2)問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識および技能を身に付けさせることができたか。